

V e r . 2008.6

祭式手帳

平成二十年

平成六年

六月

三月

改訂

作成

★
目次
★

姿勢	1
進退座起	2
行歩	2
席の離就	3
敬礼	4
祭具の進撤	5
賛者	6
後取	7
祭主	8
捲簾・垂簾・開帳	9
献饌	10
奉幣行事	12
典礼	14
拝詞奉唱	15
参向・退下	16
立礼の注意点	16

16 16 15 14 12 10 9 8 7 6 5 4 3 2 2 1

基本次第	17
地鎮祭次第	18
結婚式次第	19
葬儀式次第	20
終祭	20
告別式	21
火葬の義	22
葬後の義	22
旬日祭	23
五十日祭並びに合祀祭	24

24 23 22 22 21 20 20 19 18 17

★ 姿 勢

★

正座

膝

男 こぶし二つ開ける
 女 接する

親指を右下左上に重ねる

のばす(首で白衣の襟を押すと同時にあごを引く)

二メートル(一間)先 半眼

男 右手 笏を持って腿の中央に垂直に立てる

左手 軽く握り腿の中央に置く

女 桧扇を持って腿の中央に置く

正立

足

男 かかとを接し爪先を六十度ひらく

女 かかとを接し爪先も接する

のばす(首で白衣の襟を押すと同時にあごを引く)

四メートル(二間)先 半眼

男 右手 笏を持って脇腹に接し垂直に立てる

左手 軽く握り脇腹に接する

女 桧扇を持ってへその前に接する

着椅

膝

男 こぶし二つ開ける
 女 接する

男 平行 女 接する

のばす(首で白衣の襟を押すと同時にあごを引く)

三メートル(一間半)先 半眼

男 右手 笏を持って腿の中央に垂直に立てる

左手 軽く握り腿の中央に置く

女 桧扇を持って腿の中央に置く

★進退座起★

原則 (正中以外) 進 下 退 上 起 下 座 上

正中

進 左 退 右 起 右 座 左
 (正中に幅を持たせて考えることもある)

★行歩★

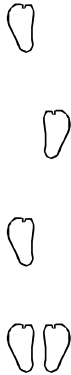
緩歩

一呼吸一步
 歩幅は一足
 (祭主・神饌長等)



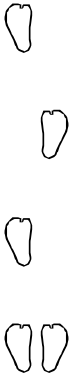
平歩

一呼吸二歩
 歩幅は二足



急歩

一呼吸四歩
 歩幅は二足
 (贊者・後取等)



★ 席の離就 ★

座礼 (起座)

小揖 跪居 立つ (動作)

(跪居と同時に手を脚のつけねに引き付ける)

(座前着座)

小揖 跪居 回転 着座 小揖

(座後着座)

小揖 跪居 膝行 着座 小揖
(一歩)

立礼 (離席)

小揖 (動作)

(座前着席)

小揖 回転 小揖

(座後着席)

小揖 列を合わせる祭員がいる場合は、少し後ろで小揖して一歩進み
列を揃えてもう一度小揖

椅子礼 (離席)

立つ 小揖 (動作)

男 かかとを接して立つ
女 そのまま立つ

(座前着席)

小揖 回転 小揖 着席
(立つと同時に手を脚のつけねに引き付ける)

(座後着席)

小揖 着席

★ 敬 礼 ★

小 揖

正笏・正扇

上体を折る 起きて 持笏・持扇

(笏・扇は体と平行 三〇度上体を倒す)

動作開始、動作終了、祭具、神饌の授受の時用いる

深 揖

正笏・正扇

上体を折る 起きて 持笏・持扇

(笏・扇は体と平行 六〇度上体を倒す)

参向、退下の時、神前で、祭詞奏上の前と後に用いる

拝

正笏・正扇

目どおり 上体を折る 起きながら持笏・持扇

(笏・扇は床と平行)

着座、神前起座、拝礼の時用いる

敬 礼

正笏・正扇

上体を折る 起きながら持笏・持扇

(深い敬礼)

笏・桧扇は床と平行 上体も床と平行

祭詞奏上中、捲簾中、開扉中等に用いる

(浅い敬礼)

笏・桧扇は床に六〇度 上体はも六〇度程度倒す

拝詞奉唱の前、大麻を受ける時等に用いる

(立礼・椅子)

笏・桧扇は床と平行 上体は六〇度程度倒す

浅い敬礼も深い敬礼も区別はない

★ 祭具の進撤 ★

三段
(さんだん)

物を持つ時の標準の高さ
 目の高さに持つもの 神饌、三方、ご献備の箱等
 胸の高さに持つもの 祭詞、玉串、奉幣、案等
 腰の高さに持つもの 膝着、薦、椅子等

三手
(さんじ)

物を持つ時の手の様子
 捧げ持ち 上位に物を渡す時、手のひらを上(後取等)
 進め持ち 同位に物を渡す時、手のひらは内(手長、替者等)
 授け持ち 下位に物を渡す時、物の上部をもって渡す(祭主等)

三手
(みて)

物を持つ時の相手との手の位置関係
 上手 上位の者は下位の者の上を受け取る(祭主、奉幣役等)
 中手 同意の者は同じ位置を受け取る(手長、替者等)
 下手 下位の者は上位の者の下を受け取る(後取、幣使等)

(注)

三方、案、奉幣台、椅子等は水平に持つ
 小案は両手で脚を持つ、大案は右手で脚、左手で下から支える
 奉幣台は左手で下から支え、右手は横に添える
 膝着、奉幣、祭詞、玉串は左高に持つ
 膝着は左手で裏から支え、右手は下端を持つ
 奉幣、祭詞、玉串は右手は手のひらを下、左手は上を向けて持つ

★ 贊 者 ★

座礼の場合

設置

(祭具置場にて)
(神前にて)

止立 小揖 跪居 懷笏・懷扇 祭具を持つ 回転起座

止立 跪居 膝行 祭具の設置 又手

膝退 小揖 起立 小揖 逆行右回転

止立 小揖 跪居 小揖 懷笏・懷扇 又手

膝行 祭具を持つ 膝退 起立 逆行右回転
止立 跪居 祭具を置く 把笏・把扇 小揖 回転起座

撤去

(神前にて)
(祭具置場にて)

立礼の場合 (椅子礼も同じ)

設置

(祭具置場にて)
(神前にて)

止立 小揖 懷笏・懷扇 祭具を持つ 回転

止立 祭具の設置 又手 逆行 小揖 逆行右回転

止立 小揖 懷笏・懷扇 又手 逆行 祭具を持つ 逆行右回転

止立 祭具を置く 把笏・把扇 小揖 回転

撤去

(神前にて)
(祭具置場にて)

(注)

神前での足の運びは、行きは左、帰りは右と覚えるとよい
進行、逆行は三步(動作としての三步をいう)

★ 後 取 ★

座礼の場合

手次ぐ

(祭具置場にて)
(祭主の左後にて)

止立 小揖 跪居 懷笏・懷扇 祭詞、玉串を持つ 回転起座

止立 小揖 跪居 懷笏・懷扇 手次ぐ

叉手 膝退 把笏・把扇 小揖 回転起座

撤する

(祭主の左後にて)
(祭具置場にて)

止立 小揖 回転起座 懷笏・懷扇 叉手 膝行 受け取る

膝退 小揖 回転起座 懷笏・懷扇 叉手 膝行 受け取る

止立 跪居 祭詞を置く 把笏・把扇 小揖 回転起座

立礼の場合 (椅子礼も同じ)

手次ぐ

(祭具置場にて)
(祭主の左後にて)

止立 小揖 懷笏・懷扇 祭詞、玉串を持つ 回転

止立 小揖 進行 手次ぐ

叉手 逆行 把笏・把扇 小揖 逆行右回転

撤する

(祭主の左後にて)
(祭具置場にて)

止立 小揖 懷笏・懷扇 叉手 進行 受け取る

逆行 小揖 逆行右回転

止立 祭詞を置く 把笏・把扇 小揖 回転

★ 祭 主 ★

神前着座

座礼
立礼
椅子礼

膝衝の手前で止立 深揖 跪居 膝行 着座 一拝
所定の位置の少し手前で止立 深揖 三步進行（左、右、揃える） 一拝
椅子の手前で止立 深揖 椅子の左を回って 座って一拝

祭詞奏上

笏・桧扇を左膝に立てる 祭詞を受け取る（笏・扇と体の間から）
笏・桧扇に祭詞を重ね 前段の再拝 置笏・置扇（懐笏・懐扇）
祭詞を開く 右手を上にして両手を重ね 深揖 奏上
読み終わると同時に左手を上にして両手を重ね 深揖
捲き取る 把笏・把扇 笏・桧扇に祭詞を重ね 後段の再拝
祭詞を渡す（笏・扇の外から） 置笏・置扇（懐笏・懐扇） 拍手 一拝

玉串奉奠

置笏・置扇（懐笏・懐扇） 玉串を受け取る 心中祈念 奉奠 拝礼
敬礼 先唱（「生神金光大神」で起きる） 正笏・正扇 奉唱 敬礼

天地書附奉体

神前起座
座礼
立礼
椅子礼

跪居 膝退 起立 深揖 逆行右折
三步逆行（右、左、揃える） 深揖 逆行右折
起立 椅子の左を回って退き 椅子の手前で深揖 逆行右折

要点だけまとめると

神前着座

前段の再拝 深揖 奏上 深揖 後段の再拝

拍手 一拝 玉串奉奠 拝礼（天地書附奉体） 神前起座

★ 捲 簾 ★

座礼 神前着座 又手 膝行 巻き上げ（向こうへ捲く） カンを掛ける（上、下の順） 又手

跪居 膝退 把笏・把扇 神前起座 逆行右回転（二人の場合は内回り）

（神前着座） 止立 深揖 跪居 膝行 着座 一拝

（神前起座） 一拝 跪居 膝退 起立 深揖 逆行

立礼 神前着席 又手 進行 巻き上げ（向こうへ捲く） カンを掛ける（上、下の順） 又手

逆行 把笏・把扇 神前離席 逆行右回転（二人の場合は内回り）

（神前着席） 止立 一拝

（神前離席） 一拝 逆行

★ 開 帳 ★

座礼 神前着座 又手 膝行（原則として祭主側へ） 開く 掛け紐を掛ける 又手

（左右別に開く時は、副祭主側まで膝行し、開く）

膝退（一拝した位置まで） 把笏・把扇 神前起座 逆行右回転（二人の場合は内回り）

立礼 神前着座 進行（原則として祭主側へ） 開く 掛け紐を掛ける 又手

（左右別に開く時は、副祭主側まで屈行し、開く）

逆行（一拝した位置まで） 把笏・把扇 神前起座 逆行右回転（二人の場合は内回り）

★ 南犬

食巽

★

座礼／立礼

(座礼と立礼で作法が違う場合は／で上下に表記)

神 饌 長

1 (定位配置まで)

自席を立つ 副祭主側の八足の脚の正面まで進む 神前着座

膝行／進行 回転して手長の方を向く 手長と合わせて小揖

懐笏・懐扇 覆面を付ける 蹲踞

2 (神饌の授受、及びお供え)

小揖 膝行／進行(一步) 受け取る(手は左、右の順)

手長一の小揖を見届け 回転起座／回転 八足に三方を置く

又手 一拝 定位にて跪居／止立(以後繰り返す)

(瓶子、水玉の口を切る それぞれ外側の手で)

3 (自席に着座まで)

全てお供えが済むと 手長の方を向いて跪居／止立

手長と合わせて小揖 覆面を外す 持笏・持扇

回転して神前に向く 膝退／逆行 把笏・把扇 神前起座

要点だけまとめると(座礼)

1 神前着座 跪居 膝行 回転 小揖 覆面 蹲踞

2 小揖 膝行 受け取る 回転起座 お供え 一拝 定位に戻る(繰り返し)

3 跪居 小揖 覆面 回転 膝退 神前起座

手長

1 (定位配置)

神饌長の神前着座の深揖に合わせて小揖して立つ／

神饌長の神前着席の一挥に合わせて立って小揖し定位に向かう

定位に向いて小揖 跪居／止立 回転(神饌長の方へ) 合わせて小揖

懐笏・懐扇 覆面を付ける 回転(下位の手長の方へ) 蹲踞

2 (神饌の授受)

小揖 一步進む 受け取る(手は左、右の順) 相手の小揖を見届け

上位に進む 渡す(手は右、左の順) 又手 一步退く 小揖

回転して定位に戻る(以後繰り返す)

3 (自席に着座まで)

全て手次ぐと 上位の手長の方を向いて蹲踞

神饌長の着座と同時に又手して上体を起こす 合わせて小揖

覆面を外す 持笏・持扇 小揖 自席に向かう

要点だけまとめると

1 深揖／一挥と同時に小揖 定位で小揖 回転 小揖 覆面 回転 蹲踞

2 小揖 一步進む 受け取る 回転 進む 渡す 一步退く 小揖 回転 定位に戻る

3 蹲踞 跪居 小揖 覆面 小揖 自席に複座

(注)

正中付近を神饌が進む場合は原則として、跪居で授受

タイミングをはかり、手のあいている者がいないようにする

覆面 袋を下にし、左耳、右耳の順に着ける。 外す時は逆

こよりが切れるような事があった時は、口にくわえる

または、榊の葉一枚をくわえてもよい

★奉幣行事★

奉幣役

1 (受け取るまで)
神前着座 置笏・置扇 受け取る

2 (両段再拝)

跪居 左足から立つ 前の足に揃えて止立 左・右・左と退く
三步目に座る 左膝の前に奉幣を立る 一拝
跪居 右足から立つ 前の足に揃えて止立 右・左・右と退く
三步目に座る 左膝の前に奉幣を立る 一拝
左手を前にさし出して 心中祈念
以後前段の再拝と同じ

3 (お供え、及び自席着座まで)

左右の手を持ち替える 幣使に渡す 正笏・正扇で上体を傾け恭敬
幣使が台に幣を差すと上体を起こす
幣使と合わせて小揖 置笏・置扇 拍交拍手 神前起座
自席に復座

要点だけまとめると

1 神前着座 受け取る

2 前段の再拝 心中祈念 後段の再拝

(左・右・左 右・左・右) (左・右・左 右・左・右)

3 渡す 恭敬 幣使と合わせて小揖 拍交拍手 神前起座

幣使

1 (手次ぐ)

自席を立ち祭具置場へ 止立 小揖 跪居 奉幣役の左後ろで止立 跪居 膝行 渡す 又手 膝退 小揖 回転起座 自席へ

2 (お供えまで)

後段の再拝が終わる頃小揖し自席を立つ 奉幣役の左後ろで止立 小揖 跪居 小揖 膝行 受け取る 膝行して正中を進む 左右の手を持ち替えて右手で台に差す

3 (自席着座まで)

副祭主側へ斜めに膝退 着座 一拝 跪居 膝退 回転(奉幣役の方へ) 奉幣役と合わせて小揖 懐笏・懐扇 拍交拍手 参拝者席に面して小揖 膝行 奉幣役の左後ろで回転起座 小揖 逆行右折 自席に復座

要点だけまとめると

1 (祭具置場で) 止立 小揖 跪居 奉幣を持つ 回転起座

(奉幣役の左後ろで) 止立 跪居 膝行 渡す 又手 膝退 小揖 回転起座 自席へ

2 止立 小揖 跪居 小揖 膝行 受け取る 膝行 台に差す

膝退 着座 一拝 跪居 膝退 回転 小揖 拍交拍手 小揖 膝行 回転起座 小揖 逆行右折 自席に復座

拍交拍手は奉幣役から先に打ち、二人で四拍手

(注)

★ 典 礼

★

参 向

楽の「附」で祭主に小揖して参向開始
祭主より少し下座を先導
神前の自席側の下座で止立
最後の祭員の着席を見届ける

(原則)

正中におもむき深揖 自席に着座

(応用：神前が広い場合)

その場で深揖 自席に着座 又は 自席の前で深揖 着座

号 令

(捲簾行事で敬礼を行う場合)

捲簾役が御簾に手を掛けたら「一同敬礼」

捲き終えて跪居になったら「直る」

(祭詞奏上)

奏上前の深揖で「一同敬礼」、奏上後の深揖で「直る」

(玉串奉奠)

祭主又は参拝者の代表が案に玉串を置いたら

「祭員共に拝礼」又は「一同共に拝礼」

退 下

祭主が自席を立つ為、小揖をしたら 自席を立つ
退下する側の下座で止立

祭主に合わせて深揖

祭主に小揖して先導

祭主より少し下座を先導

★ 拝詞奉唱 ★

神前拝詞、神徳賛詞奉唱等

「○○奉唱」と号令がかかると直ぐ拝詞集を出して敬礼唱和になる部分で起き上がる。拝詞集を持って奉唱奉唱が終わると同時に拝詞集を閉じながら敬礼

天地書附奉体

「天地書附奉体」と号令がかかると正笏・正扇で敬礼
「生神金光大神」を聞いて起きる「天地金乃神」以降は起きて聞く
正笏・正扇で奉唱
最後は敬礼

取次唱詞奉唱

参拝者代表が所定の位置で敬礼すると正笏・正扇で敬礼
「生神金光大神」を聞いて起きる「御取次」は起きて聞く
正笏・正扇で奉唱
最後は敬礼

発音

一音一音切って、はっきりした声で

★ 参向・退下 ★

参向

歩く速度は緩歩

正中で深揖（注：拝ではない）

自席に着席

二列で参向する場合は、お互いに動作を合わせる

退下

歩く速度は参向よりやや速い

自席を立ち、正中で深揖（注：拝ではない）

二列で退下する場合は、逆行して内回りに回転する

転座

参向・退下に準ずる

（注）

参向・退下の際、神前、又は霊前の正中を横切る場合は屈行する

★ 立礼の注意点 ★

神前着席（祭主の場合）

止立 深揖

進行（椅子がある場合は左を） 一拝（椅子がある場合は座って）

（祭主以外） 止立 一拝

神前離席（祭主の場合）

一拝 逆行（椅子がある場合は立って左を） 深揖

（祭主以外） 一拝 逆行

賛者・後取 座礼のように膝行・膝退が出来ないので、三步分進行・逆行する

★ 基本次第 ★

(神前)

先着 座

次 拝 礼

次 神前拝詞奉唱

次 取次唱詞奉唱

次 祭主祭詞奏上

次 祭主玉串奉奠

次 天地書附奉体

次 神徳賛詞奉唱

次 拝 礼

次 退 下

(霊前)

先着 座

次 拝 礼

次 霊前拝詞奉唱

次 祭主祭詞奏上

次 祭主玉串奉奠

次 祖先賛詞奉唱

次 拝 礼

次 退 下

祭典に応じて

捲簾(開帳)

献饌

奉幣行事

参拝者玉串奉奠

金光教の歌斉唱

吉備舞奉納

を適当な位置に挿入

霊前における祭典は、
事前に神前において奏上祭を奉仕する

★ 地鎮祭次第 ★

先 着 席
 次 拝 礼
 次 神徳賛詞奉唱
 次 祭主祭詞奏上
 次 祭主玉串奉奠
 次 関係者玉串奉奠（施主、施行者の順）
 次 治めの行事
 次 拝 礼
 次 教 話
 次 退 下

先 着 席
 次 拝 礼
 次 神徳賛詞奉唱
 次 大麻行事
 次 祭主祭詞奏上
 次 祭主玉串奉奠
 次 関係者玉串奉奠
 次 鋤入れ式（施主、施行者の順）
 次 拝 礼
 次 教 話
 次 退 下

治めの行事の順は、

神前右奥、右後方、左後方、左奥、神饌（盛砂）

大麻行事の場合、治めの行事の順に加えて、

祭主、（祭員）、参拝者

★ 結 婚 式 次 第 ★

先 親 族 着 座
 次 新 夫 婦 着 座
 次 祭 員 着 座
 次 拝 禮
 次 神 徳 賛 詞 奉 唱
 次 祭 主 祭 詞 奏 上
 次 祭 主 玉 串 奉 奠
 次 誓 盃 (三三九度の盃)
 次 教 書 授 与
 次 新 夫 婦 玉 串 奉 奠
 次 媒 酌 人 玉 串 奉 奠
 次 拝 禮
 次 退 下

先 親 族 着 座
 次 新 夫 婦 着 座
 次 祭 員 着 座
 次 拝 禮
 次 神 徳 賛 詞 奉 唱
 次 祭 主 祭 詞 奏 上
 次 祭 主 玉 串 奉 奠
 次 誓 盃 (三三九度の盃)
 次 誓 詞
 次 新 夫 婦 玉 串 奉 奠
 次 指 輪 交 換 (指 輪 贈 呈)
 次 教 書 授 与
 次 教 話
 次 親 族 固 め の 盃 (親 族 紹 介)
 次 拝 禮
 次 退 下

誓 盃 (三三九度の盃)
 第一の盃 男 女 (男)
 第二の盃 女 男 (女)
 第三の盃 男 女 (男)

時間の関係で () 内を省略することもある

雄 銚 子 ・ 雌 銚 子 の 区 別
 雄 銚 子 注 ぎ 口 が や や 水 平
 雌 銚 子 注 ぎ 口 が や や 垂 直

蝶 飾 り の 中 央 が Δ 形
 蝶 飾 り の 中 央 が V 形

提 下 (ひ さ げ : 土 瓶 型)
 長 柄 (な が え : 柄 杓 型)

★ 葬儀式次第 ★

終祭

先着座
 拝礼
 天地賛仰詞奉唱
 祭主告詞奏上
 霊璽奉遷

祭主終祭詞奏上
 祭主玉串奉奠
 喪主喪婦玉串奉奠
 遺族親族玉串奉奠
 新霊神拝詞奉唱
 会葬者玉串奉奠
 拝礼
 退下

○一同敬礼

●消灯

●祭主、柩前のローソク一対に点火

●祭主、霊神唱詞奉唱（二回）

●祭主、柩前の霊璽を神前に進め、神前のローソク一対に

●点火、この間先唱役は警蹕（けいひつ）をかける

●祭主、柩前に着座一拝

○直る

●点灯

●祭主、復座

霊神唱詞奉唱

あわれ○○の霊神（たち）

今よりは生神金光大神御取次のまにまに

天地金乃神のみ徳こうむり

いよよ霊の道立てみ受け給え

告別式

- 先着座
- 次 拝礼
- 次 天地賛仰詞奉唱
- 次 祭主祭詞奏上
- 次 祭主玉串奉奠
- 次 喪主喪婦玉串奉奠
- 次 弔辞
- 次 遺族親族玉串奉奠
- 次 新靈神拝詞奉唱
- (次) 会葬者玉串奉奠
- (次) 葬儀委員長玉串奉奠
- 次 拝礼
- 次 退下
- 次 遺族代表(葬儀委員長)挨拶

告別式

終祭

- 終祭に引続き告別式を行う場合
- 先着座
 - 次 拝礼
 - 次 天地賛仰詞奉唱
 - 次 祭主告詞奏上
 - 次 靈璽奉遷
 - 次 祭主終祭詞奏上
 - 次 拝礼
 - (終祭の終了と告別式の開始を説明)
 - 先 拝礼
 - 次 新靈神拝詞奉唱
 - 次 祭主告別式祭詞奏上
 - 次 祭主玉串奉奠
 - 次 喪主喪婦玉串奉奠
 - 次 弔辞
 - 次 遺族親族玉串奉奠
 - (次) 葬儀委員長玉串奉奠
 - 次 弔電
 - 次 遺族代表挨拶
 - 次 拝礼
 - 次 退下

火葬の義

先着座
 次拝礼
 次祭主火葬の儀唱詞奉唱
 次（又は火葬の儀祭詞奏上）
 次祭主玉串奉奠
 次（遺族以下玉串奉奠）
 次新霊神拝詞奉唱
 次拝礼
 次退下

葬後の義

先着座
 次拝礼
 次新霊神拝詞奉唱
 次（祭主祭詞奏上）
 次祭主玉串奉奠
 次遺族以下玉串奉奠
 次拝礼
 次退下

火葬の儀唱詞

あはれ「何某」の大人（敬称）はや。
 なごりは永久に尽きねども。
 今し神みはかりにゆだねれば。
 み心やすらに神の御許に立ち帰りませ。

忍手は原則として遺骸の前でのみ使用する
 従って以後の拝礼は四拍手

十日祭・三十日祭

(神前)

先着 座

次 拝 礼

次 天地賛仰詞奉唱

次 拝 礼

次 転 座

(新霊床)

先着 座

次 拝 礼

次 祭主祭詞奏上

次 祭主玉串奉奠

次 遺族以下玉串奉奠

次 新霊神拝詞奉唱

次 拝 礼

次 退 下

五十日祭並びに合祀祭
(奏上祭：神前)

先着 座

次 拝 礼

次 天地賛仰詞奉唱

次 祭主祭詞奏上

次 祭主玉串奉奠

次 拝 礼

一般的に帰幽当日を含めて数える
二十日祭、四十日祭をおこなってもよい
また十日祭は葬後の義に合わせて奉仕することもある

(五十日祭：新靈床前)

先 着座
 次 拝礼
 次 祭主祭詞奏上
 次 祭主玉串奉奠
 次 遺族親族玉串奉奠
 次 新靈神拝詞奉唱
 次 拝礼
 次 靈璽捧持、転座

五十日祭、合祀祭を併せ行う場合は、この部分を省略してもより

(合祀祭：靈前)

先 靈璽奉安
 次 着座

- 一同敬礼
祭主、靈璽を捧持し、典礼の先導によって靈前に向かう。
- 祭主、靈璽を靈床に安置する
- 靈璽奉安の間、祭員所定の位置に着座、敬礼
- 直る
- 祭主、正面に着座、拝礼、復座

次 拝礼
 次 靈前拝詞奉唱
 次 祭主祭詞奏上
 次 祭主玉串奉奠
 次 遺族親族玉串奉奠
 次 祖先賛詞奉唱
 次 拝礼
 次 退下

捧持、奉安の作法

祭主新靈床前に着座、一拝、覆面し、靈璽を捧持し靈前に転座（祭員これに従い転座）
 靈前に靈璽を奉安し、着座、覆面を取り、再拝、拍手、一拝、定位に戻る。

